

家 族 福 祉 相 談 機 関

東京カリタスの家ニュース

www.tokyo-caritas.org

No. 125

2010.12.1

財団法人 東京カリタスの家

発行責任者 小宇佐 敬二



〒112-0014 東京都文京区関口3-16-15 Tel : 03-3943-1726 Fax : 03-3946-9156

目 次

特集：存在

巻頭言 小宇佐敬二P.1 「存在」～繋がっていること	子ども相談室 三宅浩之P.5 存在
寄稿 森一弘P.3 マルタとマリアの物語から	シリーズ 中西昭子P.7 ボランティアの一日
家族福祉相談室 志立章子P.4 一粒の種	ショートインタビューP.7 ★★ 表紙のロゴは「連帯」を表しています ★★

巻 頭 言

「存在」～繋がっていること

(財) 東京カリタスの家 常務理事

小宇佐 敬二

頰椎の手術の後、一年間の休養をいただき、いよいよ仕事に復帰することになりました。那須の「ガリラヤの家」への赴任が決まり、その様子を見に行くことにしました。朝早く発つことにしたので、夜になって車にガソリンを入れてこようと思い立ち、その帰りに交通事故に遭いました。

対向車はアスファルトを半分剥がした工事の路面に気付かなかったのでしょうか。かなりの勢いで突っ込んできて、急ブレーキを踏み、スピンしながらこちらに向かって来ます。一瞬の正面衝突でしたが、その場面はスローモーションフィルムを見てい

るように憶えています。激しいショックとともに、わずかの時間ですが、気を失ったようです。

意識がもどっていくなかで、最初に行ったことは、「頰に触る」ことでした。ほとんど無意識的に頰に手を回し、「あ、繋がっている、大丈夫。」という想念を持ち、安心しました。

この様な時、多くの人は最初に顔に触るのだそうです。顔と手が繋がっていることを確認し、生きていることを確認するのでしょうか。私の場合は頰にこだわりがあるため、頰に触ったのでしょうか。「自

分の存在を確認する」そのような仕草だと思いません。

「自分の存在を疑ったことがあるかな」と自分に問いかけながら過去を振り返ってみて、この事故のことを思い出しました。激しい事故で重傷を負っていたのですが、痛みや苦しみは全く感じませんでした。やがて状況の確認を始め、自分がほとんど身動きできないことを知りました。対向車の運転手が呆然と立っていました。スピンして私の車とほとんど横並びになっている対向車の間に、人が一人横たわっているのも見えました。極めて冷静に状況を見定めているかのような自分が居るのです。多分、大量のアドレナリンが体中を駆け巡っていたのでしょう。

「自分の存在を疑う」。健全な状態の時はまず起こらない疑念でしょう。しかし誰もがどこかで、このような疑念に陥っていくようです。朦朧とした意識の中で、自分の所在を見失ったとき。苦痛や抑うつの中で、生存感覚が低下していくとき。あるいは逆に、思いがけない喜びや感動があふれ出し、頬っぺたをつねってしまいたくなる時。苦痛や抑うつ、あるいは朦朧とした意識の中で頬っぺたをつねる行為が、時折「自傷行為」として現われることもあります。

「存在論」と「認識論」は哲学の始めであり、形而上学の基礎ですが、自分の存在をしっかりと受け止めることが、「生きていくことの基礎」だと思います。そして、そのために必要な行為は、繋がっていることを確認することなのではないでしょうか。首と胸が繋がっていることを確認することから始まり、自分と世界が、自分と社会が、自分と他者が繋がっていることを確認することにより、自分の存在を確認することができるのです。

自分の存在をより深く認識するために必要なものは、自分を写し出す確かな鏡の存在です。わたした

ちは自分を取り巻く世界に自分の姿や影を写し見て、自分の存在を認識します。社会の評価、様々な人の反応、自分を写し見る鏡は多様にあります。しかし多くの鏡は、固有の文化や価値観、イデオロギーあるいは人間の感情などによって、様々なゆがみを持っています。愛憎こもごもの人間の心に映し見れば、そのゆがみもさらに大きくなるでしょう。私たちにはゆがみのない鏡が必要です。表面的な形状を透かし見て、存在そのものを映し出し、この存在を肯定している確かな存在に繋がれていることが必要なのです。その確かさに磨かれて、私たちもよりひずみの少ない鏡として、世界を、そして他者の存在を写し出すことができるようになるでしょう。

「大切にすること」「共感すること」「受容すること」これがまわりの存在に繋がる鏡としての自分を磨き上げていく研磨剤であるようです。

(東京カリタスの家 常務理事)

ほほえみ

私はほほえみを見つけ そして取り戻すためこの病院にいる
実社会にでた時、私はほほえみを与え そしてたくさん受けたい
多く与える名の如く 多くの人にほほえみを与えたい

なにしろ？

なにしろ不安が多かった
なぜって？だって社会が恐ろしかったんだもん
なにしろ悲しみが多かった
だって社会全体が涙のヤニの塊で 私なんか、
その中で、ポロポロ涙を流していたんだもの

人生という落書き

生きるということは
一生に一度しかないチャンス そのチャンスに
私はペンキのように 塗っていく

松井なおこ「いのちふくらませて」
(ケイ・アイ・メディア発行)